



「正確な音」を
伝えるための
パートナーの存在

デンソーテンが展開するイクリプスのスピーカーをフィーチャーした連載「TD experience」。今回は、同スピーカーを積極的に販売する「パートナーショップ」の存在を紹介したい。取材にうかがったのは宮崎県でホームシアターのインストールを手掛ける木田電業。パートナーショップはどのように生まれ、ユーザーメリットへと還元されているのだろうか。



ECCLIPSEパートナーショップを訪ねる

イクリプスのホームオーディオ製品を展開するデンソーテンでは、2016年から同社製品の普及のために「ECCLIPSEパートナーショップ」制度を導入している。これは、イクリプスのスピーカーをしっかりと試聴、購入できるオーディオ店を明示したいわけメーカーのお墨付き。パートナーショップの認証を得るには、グレードに合わせた製品の展示が必須となっている。もちろん、ただ製品があるだけではなく、お店のスタッフに正しい製品知識があることも「お墨付き」の理由だ。パートナー店はデンソーテンが開催するセミナーなどを通じて、製品だけに留まらない音に関わるさまざまな知識を習得しているという。

何よりも音のよさを体験できる
それが「パートナー」の成果

今回うかがったのは宮崎県の木田電業。霧島酒造でも有名な都城市にショールームを構える同社は、その名の通り電気設備などの工事を生業としているホームシアターのインストラーだ。創業16年を迎えるとのことだが、ホームシアターの分野に進出したのは意外にも最近とのこと。元々専門としていた電気、空調、ネットワー



↑5.1.4構成のメインシステムを鳴らすのはヤマハのセパレート型AVセンター、CX-A5100とMX-A5000。ディスクプレーヤーにはオッポデジタルのUDP-205が使われている



↑代表取締役の木田弘信さん。ご自身も現場に出て、電気工事作業をすることもあった。木田電業では、空調やネットワークなどの配線工事のほか、太陽光発電システムの設計・施工も請け負っている

←ショールーム内で見つけた「ECLIPSEパートナーショップ」のトロフィー。都城ショールームでは、写真のパッケージシステムCDR1やUSB DAC内蔵アクティブスピーカーTD-M1なども試聴可能だ。うかがう際には、まずは問合せを

Shop Info.

木田電業

都城ショールーム「has...」
●所在地：宮崎県都城市山之口町富吉4192-4
●問合せ先
Tel：0986(57)4305
Mail：info@kida-dengyo.com



↓シアタールームは約5mもある吹き抜けになっている。その天井に設置されるのは4本のTD508MK3だ



↓フロントL/C/RスピーカーにはTD712zMK2が、サラウンドスピーカーにはTD510ZMK2が充てられている



ク工事などの知識を活かし、ホームシアターのインストールを始めたのは、ここ3、4年前だという。

「意外」と思ったのは、お店の立派な付まいがあったからなのだが、何よりの理由はショールームのシステムの音のよさ。イクリプスのスピーカーで統一された5.1.4システムで聴くドルビーアトモス音響は圧巻だった。応答性のよさから来るのである音の余韻の長さ、明瞭さ、確かな定位など、これまで連載で紹介してきたイクリプスのよさが体現されていると実感できる。天井のスピーカーを含め、すべてが同一の思想で設計されたスピーカーであるメリットも大きい。

このクオリティはセミナーを経たパートナーだから、というだけの理由では得難いだろう。それもそのはずで、ホームシアターに進出したのは、代表の木田弘信さんのオーディオ好きが高じてのこと。曰く、ショールームに展示してあるマッキントッシュのアンプなどは「完全に趣味(笑)」。これらで大口径ウーファアをバリバリと鳴らしていたこともあるという。素晴らしいシステムは、マニアの情熱とメーカーの協業の成果ということか。

そんな木田さんがイクリプスを選んだ第一の理由は、見た目に惹かれたこと。ホームシアターのインストールというシーンでは、スピーカーは外に露出しないインウォールタイプが好まれることもある。その中で、主張しすぎない閉型のフォルムが好都合だったわけだ。スタンドが一体型に

イクリプスに惚れ込んで 自宅のあらゆる部屋にも導入!



↑木田さん宅のリビングは120インチスクリーンを備えたテレビとの2ウェイシアター。スピーカーはTD508MK3とTD520SWによる5.1chシステム



↑寝室にはリビングと同じくTD508MK3を設置。こちらは2chだけの簡易システム



↑同じくリビングの横方向には2ch専用のオーディオスペースも設けられている。ここではTD712zMK2が活躍中



←①120インチスクリーンの後方にはJVCのプロジェクターDLA-X590Rを天吊で設置。すべてが白で揃っているので、機材が主張しすぎずインテリアに馴染んでいた。②お風呂ではさすがにイクリプスの導入を断念。写真はオンキヨーの「ウォールマウント」システムの操作部。天井に加振器(アクチュエーター)を設置して音を出す新製品だ。③自宅でもクレストロンのシステムを導入。照明やシアター、エアコン、会社の駐車場の様子が見えるカメラも遠隔操作できる



↑こちらは木田さんの「趣味」のオーディオラック。ラック自体は家具職人への特注品。図面という共通言語で会話できるため、職人とのやりとりがスムーズにいくのだという



↑ロフトのようになった2階部分には100インチスクリーンのサブシステムを設置。TD508MK3とTD307MK2Aというグレードの異なる機種を比較試聴できる

→クレストロンでのホームオートメーションはタブレットで操作。照明やカーテン、エアコンの調整が可能だ。右のGoogle Home Miniでの音声操作にも対応する(!)



↑昨年12月に竣工したばかりという新事務所。ショールームの隣、同敷地内に併設されているのだが、こちらもセンスあふれる内観。スピーカーはやはりイクリプスだった

TD
experience
Vol.5

なり、角度調整が可能という点もインストール上はメリットなのだろう。ショールームの天井スピーカーも試聴位置に向けて微調整されている。

そして、実際にイクリプスに触れてハマったのがその音。デンソーテンが考える「正確な音」という思想に強く共鳴した木田さんは、ご自身の新居のあらゆる場所にイクリプスのスピーカーを設置するに至った。趣味のスピーカーは別、ということもなく、イクリプスのスピーカーが「ベストですね」と言い切る。

AIスピーカー連携もアリ!
電業の強みはAVに活きる

自身も愛用している、真にオススメの製品を真摯に販売する、こうした姿勢は頼もしい限りだが、木田電業がホームシアターインストーラーとして信頼に足る理由は何だけではない。それが元々の専門である電気工事関連の信頼の高さだ。もし、ホームシアター、つまりオーディオビジュアル機器に関わる部分だけの専門家であれば、電気工事はまた別の専門業者に任せることになるだろう。しかし、電気工事や家庭内ネットワークにまつわる部分をすべて自社でまかなえるのが木田電業の強み。近年のオーディオビジュアルはネットワークとの親和性が高まるばかりなのだから、これはありがたいことだ。

ホームシアタールームに求められる室内配線や必要な配管など、オーディオ的優先事項は馴染のない職人には伝わりづらいもの。図面を引くだけでなく、施工までを一貫して担当してくれるということは、大きな安心感につながる。

特に力を入れているのがクレストロンを用いたホームネットワークの構築。そのための専任のスタッフもいるほどで、最近では話題のAIスピーカーとの連携できるシステム開発も行なっている。例えば、Google Homeに「OK、グーグル」と呼び掛けて「ホームシアターを開始」と言えば、カーテンが締めまり、スクリーンが降り、プロジェクターのスイッチが入る。そしてAVセンターのモードや音量も自動調整され、映画を観るための環境がすぐに整う……といった具合。

これまでもiPadなどでホームシアターを制御して誰もが使いやすく、というオートメーションの提案はあった。しかし、実際にAIスピーカーを使ったデモを受けてみると、利便性がさらに高められ、よりユニバーサルになっていくかもしれないという可能性を感じる。命令「コマンド」の充実を含め、システムはより便利になるように開発を続けていくというから楽しみでならない。

もちろん、ソフトのアップデートなどなどアフターフォローも万全。このあたりも専任スタッフ常駐の安心感だ。百聞は一見、そして一聴に如かず。イクリプスのスピーカーが気になったら、まずはお近くのパートナーショップを訪ねれば間違いなし。この取材では、それを確信できた。(本誌・柿沼)